

銀河を見上げる住まい

隣地

隣地

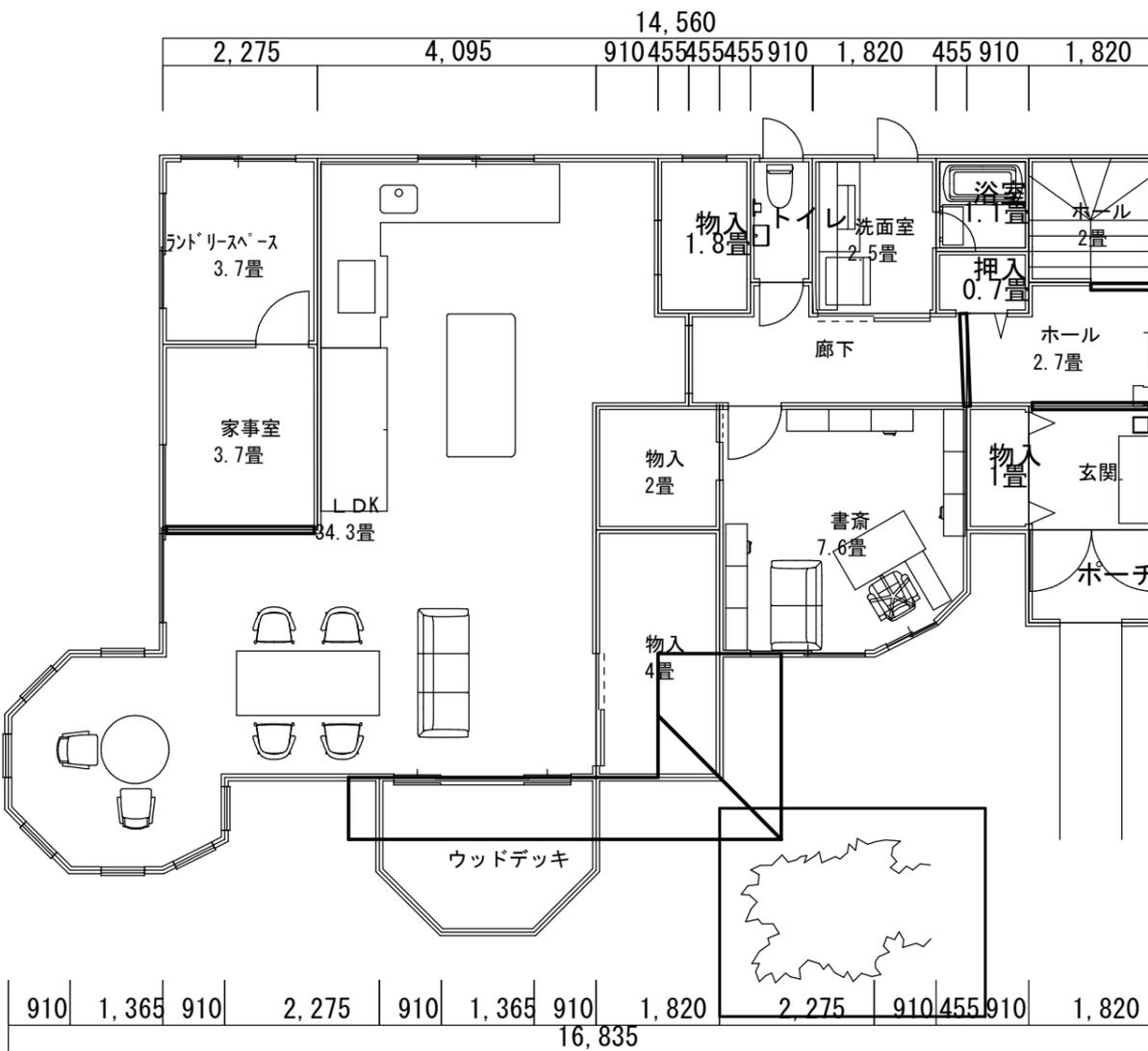
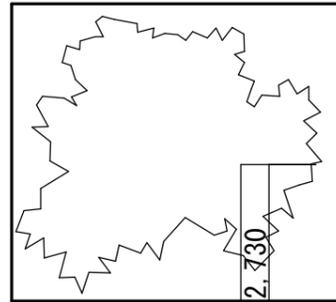
隣地

隣地

隣地

隣地

隣地



11,375

2,730

2,730

1,820

910 455 455 910 910 1,820

1,365

1,820

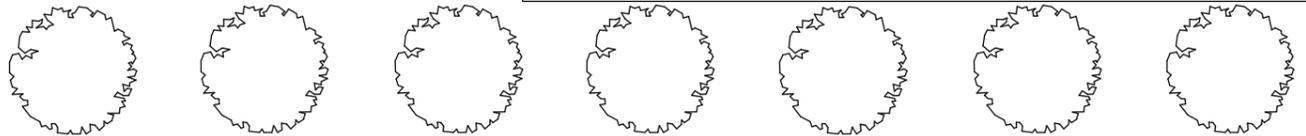
455 455 910

1,820

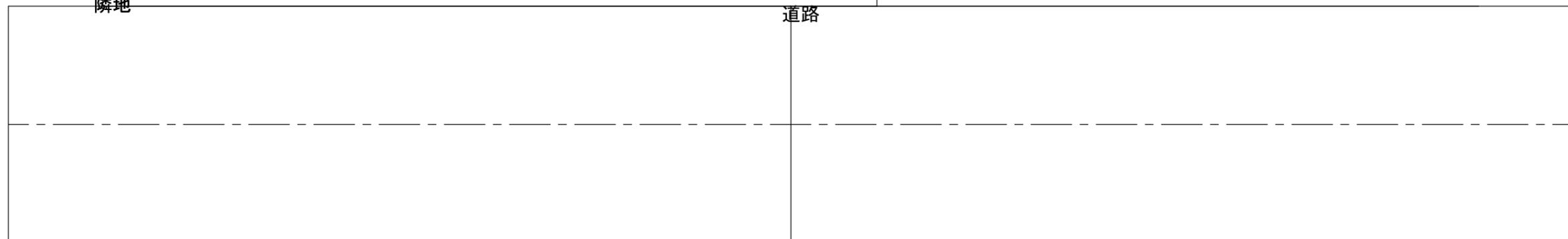
1,365

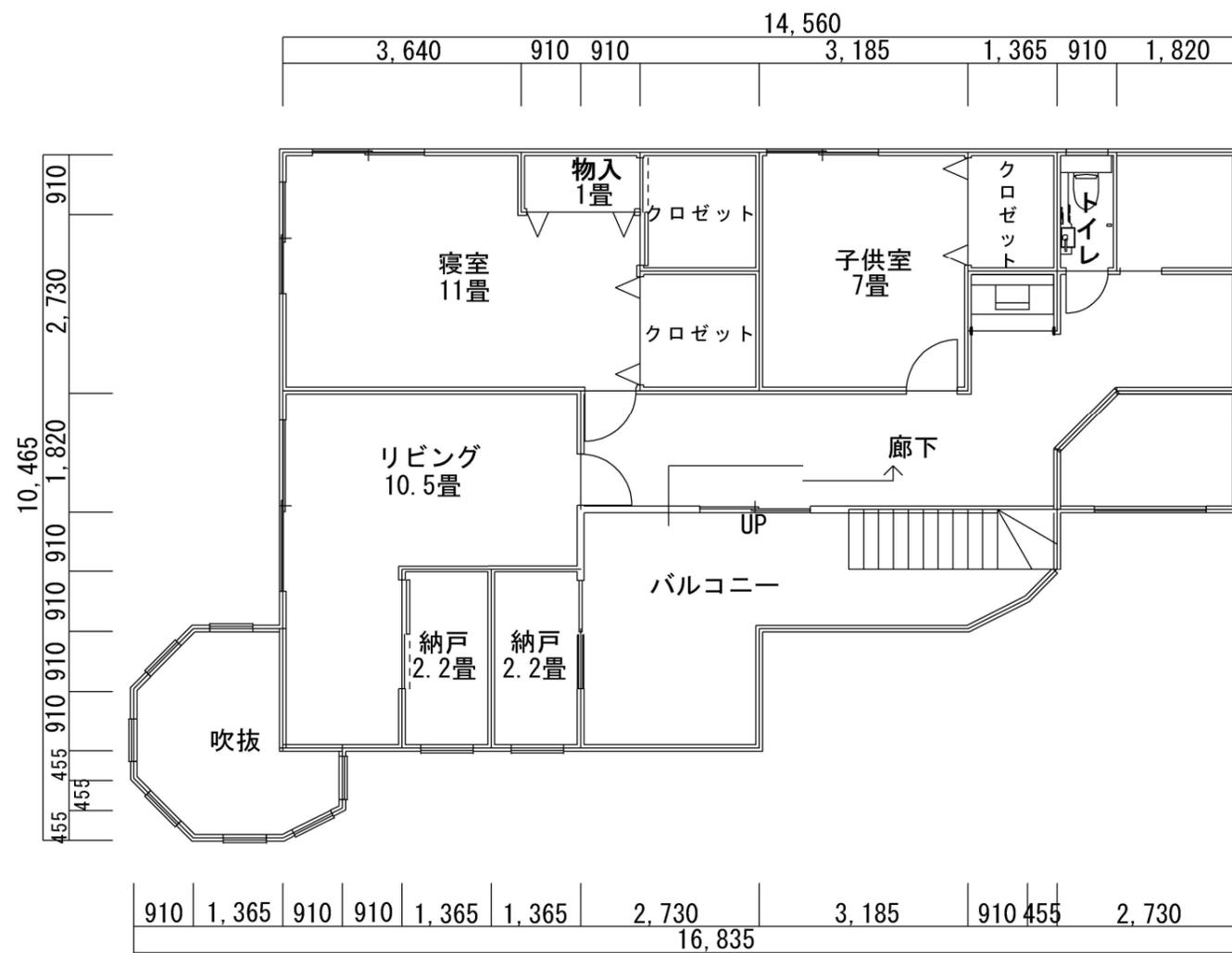
455 455 1,365

10,465

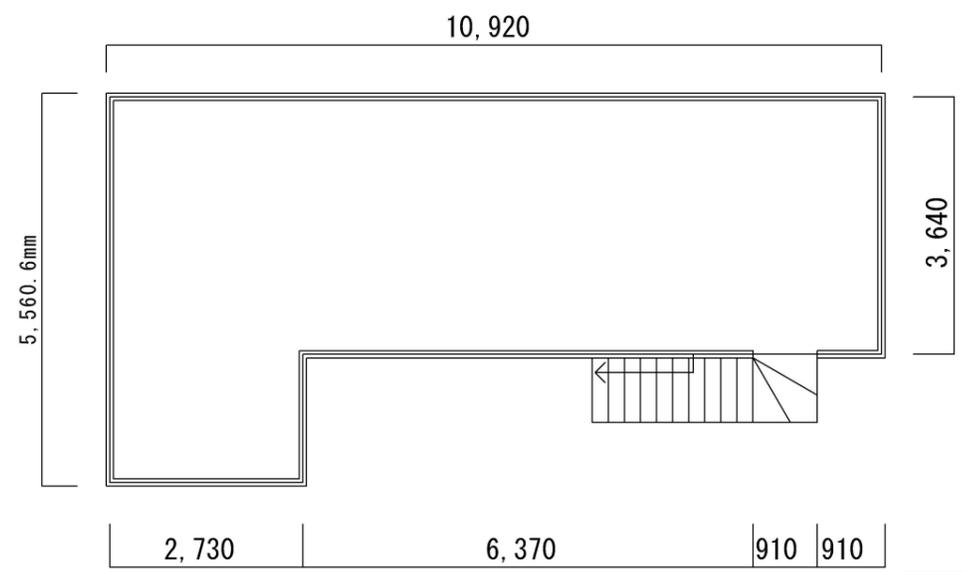


道路

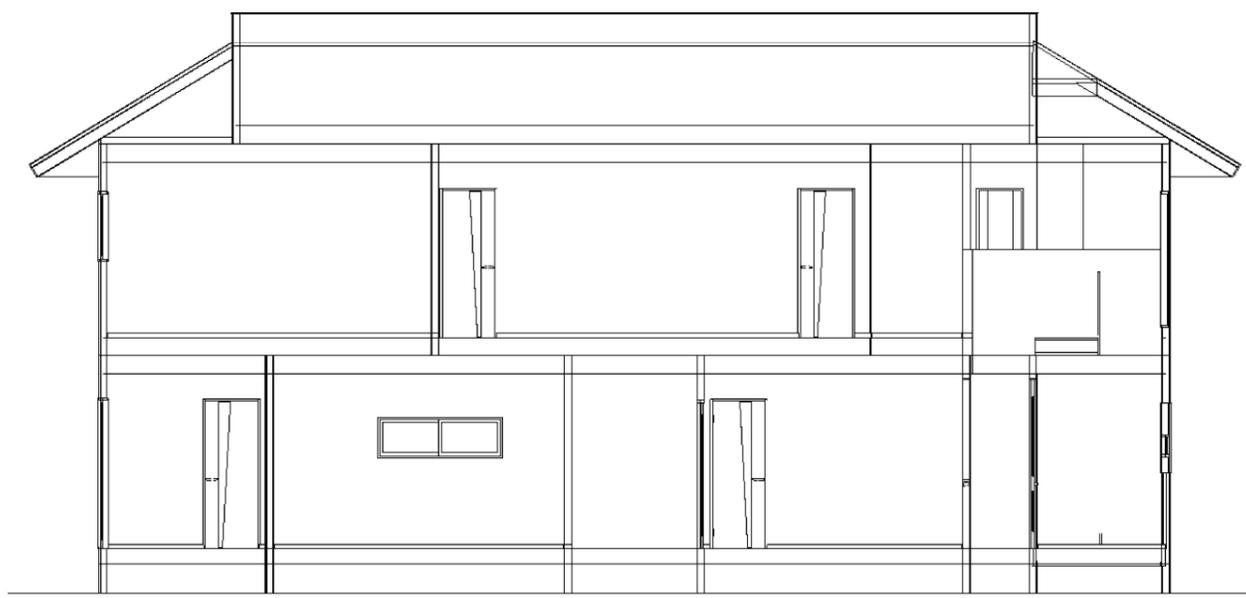
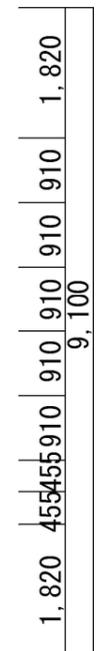




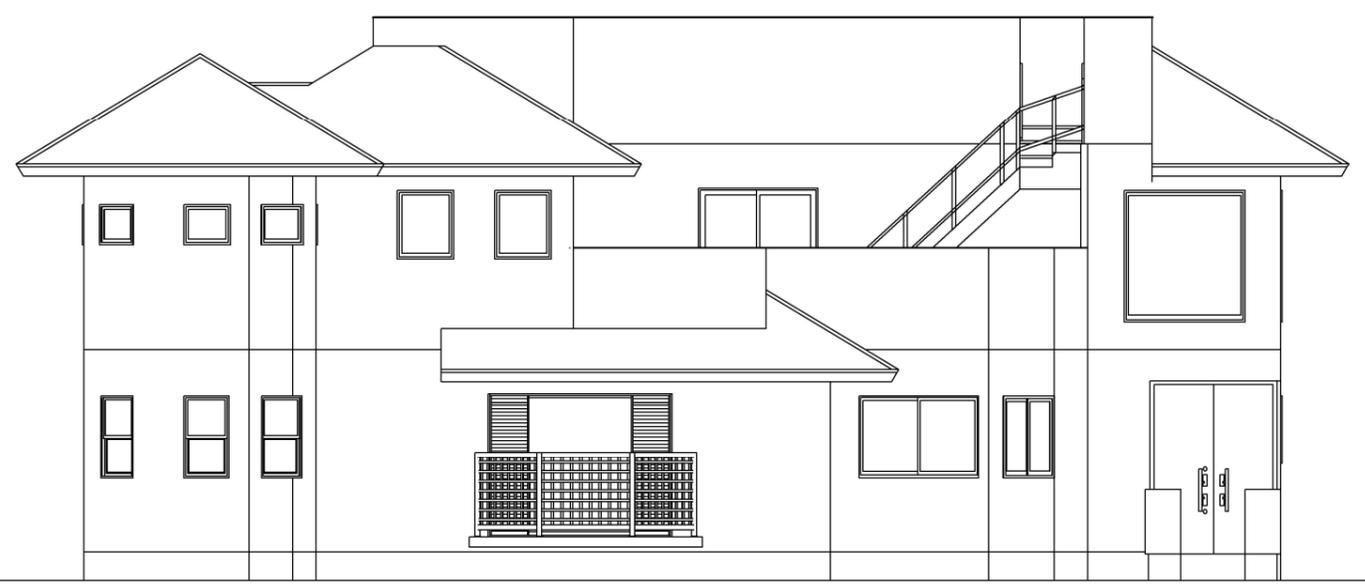
2階平面図 1/100

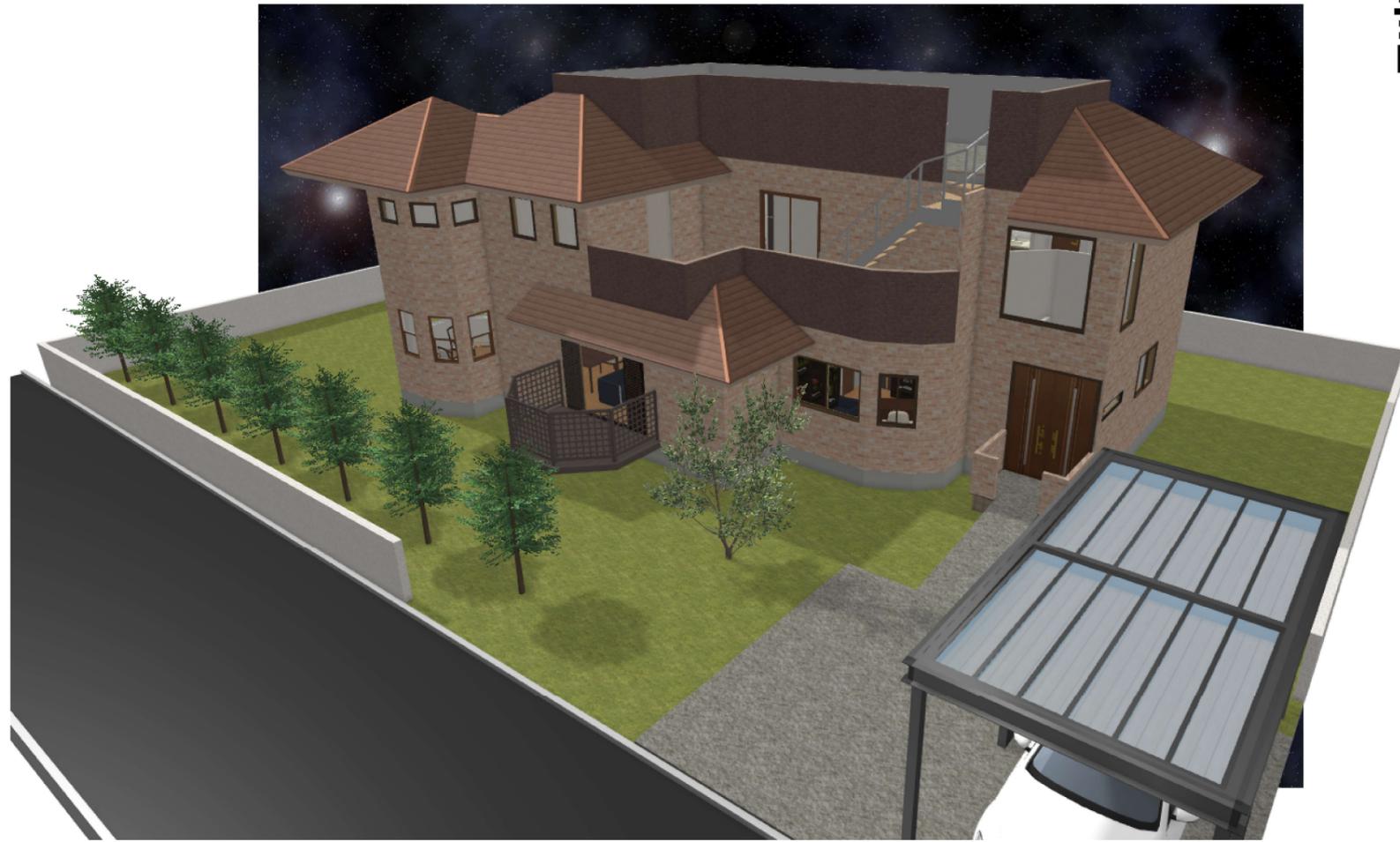


3階平面図 1/100



南断面図 1/100





設計趣旨

本計画は、「星を楽しめる設計」をコンセプトに、日常生活の中で星と向き合う時間を生み出す住まいの在り方を提案するものである。

このコンセプトを設定した背景には私自身が星を見ることを好んでいるという個人的な経験がある。近年、都市化や街の開発が進むにつれて、夜空を見上げ、星を楽しむことのできる環境は減少しているように感じる。そこで本計画では、住まいという身近なスケールから星を楽しむ環境を作ること自然との関係性を見直すきっかけとなる空間を目指した。

本計画の核となるのは、屋根の一部を屋上テラスとし、星を鑑賞するための特別な場所を住居内に取り込んだ点である。屋上テラスは、日常生活の延長として星を楽しめる場であり、住まいの中に「星と向き合う時間」を意図的に組み込んでいる。また、望遠鏡を用いた観察を想定し、室内は持ち運びがしやすいよう動線と空間にゆとりを持たせた構成としている。さらに窓の配置やウッドデッキの設置によって内外のつながりを強め、昼夜を通して自然を身近に感じられる空間を形成した。

以上のように、本計画は「星を楽しめる設計」という明確なコンセプトのもと、星を眺める行為を特別なものではなく、日常の一部として取り込む住まいを提案している。本設計を通して、住まいが自然と人を結びつける媒介となることを期待する。